



発表者の写真

営農段階で可能な赤土等流出防止対策技術
沖縄県 農業研究センター 土壌環境班
班長 久場峯子



環境保全型農業を推進するために



**営農段階で可能な
赤土等流出防止対策技術**

2012年6月29日

沖縄県農業研究センター 土壌環境班 久場幸子

スライド1

赤土というタイトルになっており、この南部地域は赤土ではありません。しかし、ジャーガルやクチャも含めて土がかなり流出しているということが分かっていますので、それをいかに食い止めるかという農業レベルでの話をします。

農業における環境保全技術

営農活動は環境に**負荷**がかかる 

- 多肥による地下水汚染：
硝酸性窒素（ブルーベイベー） → 肥効率の向上
- 堆肥化過程での亜酸化窒素や二酸化炭素（温暖化ガス）
→ 好氣的条件と適正水分
- 化学合成農薬の多用： → 天敵利用
多肥が新たな資材の投入を必要とする
- 圃場の耕耘による土壌流出 → 減耕起
カバーリング

スライド2

営農活動は環境に負荷を与えます。

例としては、多肥による地下水汚染、堆肥化過程での亜酸化窒素や二酸化炭素、化学合成農薬の多様、圃場の耕耘による土壌流出があります。

環境保全向上技術の持つ非生産性

直接収入に結びつかない場合が多い

- 作物栽培管理以外に費用・時間・労力がかかる割には、直接収入に結びつかない。
- 環境先進国では、農家が環境にやさしい対策をとれば、助成金を支払う制度がある。



国では直接支払い制度の検討を始めている

支援制度がないとやらないのが人？

スライド3

環境保全向上技術は、直接収入に結びつかない場合が多いです。
そのため、国では直接支払い制度の検討も行っています。